

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○要約して、選択し解答することはできている。 ○無回答が少ない。粘り強く問題に取り組むことができる。 ●問題の意味を解釈する力が弱い。 ●語彙が少なく、言葉の理解が不十分。	・わからない言葉は辞書で調べる習慣をつけ、語彙を増やしたり言葉の理解を高めたりする。 ・読書(文庫本)を読む習慣をつける。対話を通じた解釈の確かめを行う。 ・図書館活用教育を推進していく。
算数	○基礎的な計算力は身につけている。 ○角度や基本的な図形など、視覚的に認識する力は持っている。 ●数量の関係を式や言葉で説明する力が弱い。	・式を立てる前に「何を求めるのか」を言葉で説明させる。 ・ただの計算練習ではなく、「理由を言う」ことを重視する。
理科	○自然に触れる分野(生物・地学)に強みがある。 ●条件制御の問題(水の染み込み・発芽)の正答率が低い。1つだけ条件を変え、他の条件を全てそろえることへの理解が不十分。 ●実験結果から、「何が分かるか」ということを正しく考えられていない。	・条件制御の実験の度に、そろえる条件と変える条件を繰り返し確認していく。 ・実験後の考察に時間をとり、「何が分かるのか」「何がわからないのか」を考え、理解させる。

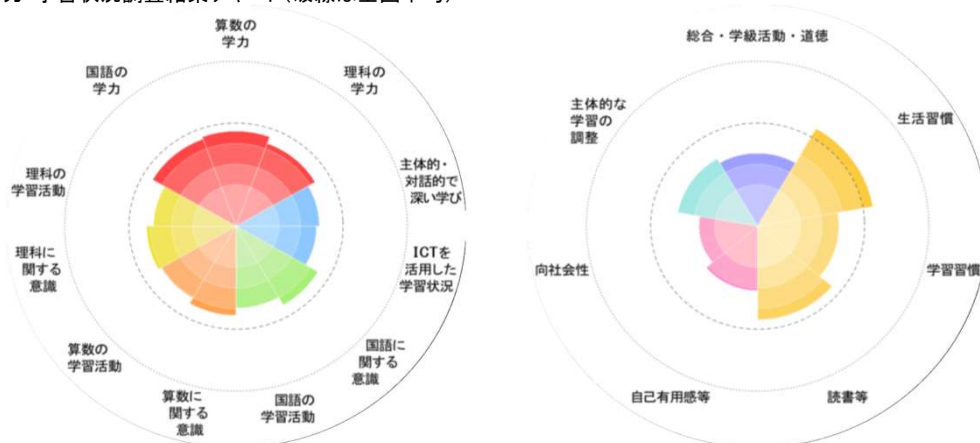
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○朝食を毎日食べ、起床・就寝時間が毎日同じくらいになっており、生活リズムが安定しているなど、良好な家庭環境にある。 ●地域や社会をよりよくしようとする意欲を持つ児童が少ない。 ●ICT機器を用いた文書作成やプレゼンテーションの経験が少ない。	・道徳や音楽、家庭科など授業の中で地域や社会をよくすることについての意識づけを図っていく。 ・国語や総合等の時間に文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトを活用する機会を増やす。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	スクールワイドポジティブ行動支援の多層支援システムを活用して、児童に望ましい行動を効果的に伝え、賞賛や承認など適切に行動しやすい環境を整えることで、全ての児童に望ましい行動を学ばせるようにしていく。
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

36 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

